世田谷村日記　　石山修武

十月二五日

ギリシャから元スタッフのクリソストモス来室。やはり十一月から兵役につくそうで期間は十四ヶ月だそうだ。ようやく日本に慣れかけてきた時の兵役だからショックだったろう。担当していた星の子愛児園の進行状況を気にしてくれた。ヘレン・ケラー記念塔の完成写真を見せる。残念だが仕方ないことなのだ。日本の学生はいかに過剰な自由を保持しているか自覚しなくてはいけない。サヨウナラ、又会えることを祈りましょう。

夜七時より明治通り明和会でレクチャー。都心の空洞化とオフィスビルのアパートへの再生、コンバージョンについて話す。具体的に早稲田の学生の居住空間の確保、留学生の為の床面積の不足と明治通り沿いのビルの空き床の問題解決の方法として話したのでわかりやすかったと思う。今学生に課題としてこの問題を出しているので良いタイミングだったように思う。学生が百人程聞き込み、リサーチに周辺をウロつき始めて、何が起きたのかと商店主、ビルのオーナーは思い始めていただろうから。二〇〇二年一月に学生の提案の展覧会を開催することを次の段階にしましょうという事になった。少し学生にも気合を入れなければならない。近所の寿司屋でおそい晩メシ。寿司をつまみながらテーブルについた面々の顔を眺めれば、これはいかんともしがたい老人社会で、それでも皆さん元気に議論を続けていた。十時三〇分退席。

十月二六日

昨夜家に戻ったら藤森照信からファックスが入っていて、ＮＨＫの、先輩が後輩としての小学生に語りかけるという番組に出るから、ヒマだったら見てくれというものだった。十月二八日のゴールデンタイムの番組だから見れるかどうか難しいが、やっぱり視てやるか。こちらもＮＨＫの教育ＴＶへの出演が予定に入っているのだが、又、アイツは一歩先に行ったと言うだろうな。だってゴールデンタイムのメジャー番組だぜアナタと明るく自慢するに違いないのだ。イヤー手帖を見たら二八日は日曜日ではないか。これは充分見たくなくても見れてしまうよ。日曜日のゴールデンタイムのＮＨＫに出れるのは建築界では安藤と藤森しかいないな。クソーッと思うがこれは仕方ない。藤森の方が要するに俺よりも有名なのだ。今の有名さ、知名度は恐らくデジタル測量になっているだろうから現実には更に厳しい数字が出ているにちがいない。こういう形の有名さ情報の廻り方は現代特有のものだから、藤森はコルビュジェとはちがう建築家になる可能性がある。そしてコルビュジェと同じタイプの建築家にはなれない。安藤忠雄はメディアをバックにコルビュジェをデジタルで追いかけつつあるのだが、藤森はそれとは異る荒野にさまよい出ている。そこが面白い。もう少し年がいって、つまり初老の域に達して歴史家のプライドをかなぐり捨てても良い仙境に達すれば藤森は何を作り出すかわからんぞ。現段階では藤森の建築はヘタッピイのだけど、うまい下手は数をこなせば何とかなるから。情報化時代の建築家のヒナ型は意外や意外、藤森照信だったという幕明きになるかも知れない。何が起きるかわからない世の中だからナア。